

コース1

移動距離 約3.6km

移動時間(徒歩) 約60分(滞在時間は含まれておりません)

武蔵野市役所コース 武蔵境駅)

スタート 武蔵境駅北口

- ① 本村第二公園
- ② ぎんなん橋
- ③ 境浄水場
- ④ グリーンパーク遊歩道
- ⑤ 関前三丁目交差点付近
- ⑥ グリーンパーク遊歩道
- ⑦ 「武蔵野市平和の日」制定記念樹
- ⑧ 都立武蔵野中央公園
- ⑨ 大型説明板・中島飛行機武蔵製作所爆撃照準点
- ⑩ 都営武蔵野アパート
- ⑪ NTT 武蔵野研究開発センタ
- ⑫ 武蔵野市陸上競技場

ゴール 武蔵野市役所前

① 本村第二公園(ほんむら)と 都道・調布 保谷線(引き込み線軌道跡)

村山・山口貯水池の水を浄化するため、1924(大正13)年に境浄水場が開設された。同所は緩速濾過方式を採用しており、そのため早くから濾過用の砂を運び込む引き込み線が武蔵境駅から敷設されていた。その軌道跡が本村公園である。戦争も末期の1943(昭和18)年、この軌道を利用し、武蔵境駅から中島飛行機武蔵製作所への引込み線が敷設された。北側は、境浄水場の東端、現在の玉川上水に架かる「ぎんなん橋」につながっていた。新たに開通した都道12号線=調布 保谷線の堀合(ほりあわい)付近は、この軌道跡にあたる。



玉川上水にかかっていた鉄橋

② ぎんなん橋

都道・調布 保谷線開通により、境浄水場東側の玉川上水に新たな橋(いちょう橋)が架けられた、また、引き込み線軌道跡には「ぎんなん橋」が掛けられた。この橋の下には、引き込み線だったときの橋梁を受ける台である「橋台(きょうだい)」の一部が残っている。



空襲被災地

③ 境浄水場

境浄水場は、アメリカ軍により爆撃目標確認の目印とされていた。日本側では、水面が光るからだと考え、建物疎開で生じた戸板を水面に浮かべ、偽装(カモフラージュ)をはかったが、効果はなかったと思われる。



関前高射砲陣地跡

④ グリーンパーク遊歩道

爆撃が始まった頃、関前に急ピッチで高射砲陣地が設置された。都道・調布 保谷線のうち、関前三丁目交差点の南、大型ドラッグストアの南側一帯がその場所である。高射第1師団・第116連隊・第1大隊・第4中隊といい、88(ハチハチ)式7センチ高射砲6門が設置されていた。しかし、高度3万3千フィート(約1万m)以上を航行するB29には届かず、「弾幕」を張ってわずかに妨害をするのみであった。なお、関前近くでは、成蹊学園グラウンドや現在の武蔵野赤十字病院の場所にも高射砲陣地があった。



空襲被災地

⑤ 関前三丁目交差点付近

関前は空襲による犠牲者が多かった場所である。1944(昭和19)年12月3日の第2回空襲で、関前三丁目交差点から現在の武蔵野大学までのあいだで、二家族10名が防空壕内で爆死した。これは武蔵野町民の最初の空襲犠牲者だった。翌1945(昭和20)年4月12日の空襲では、関前三丁目交差点から南側一帯に1トン爆弾が数十個落ち、高射砲陣地の兵士ら30名近くが亡くなった。この地域の最後の空襲である8月8日には、五日市街道をまたいで遊歩道を南へ入ったあたりに1トン爆弾が落ち、一家5名が防空壕内で亡くなった他、3月10日の東京大空襲で焼け出され疎開、この地で犠牲となる悲劇も起きた。



引き込み線軌道跡

⑥ グリーンパーク遊歩道

1951(昭和26)年、「武蔵野グリーンパーク野球場」が現在の「UR住宅・緑町パークタウン」の場所に開設された。5万人収容を想定していたという。現在のUR住宅の中央の円形の広場が球場の中心部分に当たる。また、かつての中島飛行機への引き込み線は球場開設に合わせて、三鷹駅から切り替えられた(現在の三鷹市の「堀合(ほりあわい)遊歩道」がその軌道跡)。しかし、武蔵野特有の砂ぼこりのため、球場は短命に終わった。球場閉鎖とともに引き込み線も廃止され、玉川上水より北の武蔵野市域の軌道跡は、後に「グリーンパーク遊歩道」となった。

